



放射線部ウェブサイトはこちらのQRコードから

成田記念病院 放射線部  
発行責任者：山本 和也  
編集責任者：中西 真真  
編集者：坂神 友美佳  
：鳥居 大雅

発行日：2021年7月7日(夏号)

## ☆RI(核医学)検査～認知症の診断～☆

### ◎物忘れありませんか？

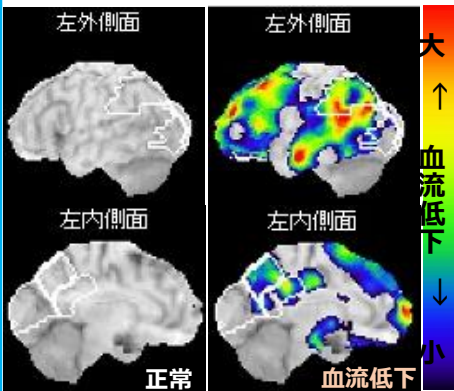
「最近、よく物忘れをする。」など気になっている方、また、周りで思い当たる方はいませんか？物忘れの多くは加齢に伴い起こります。しかし、その中には初期の認知症が含まれていることがあり、検査による早期発見が重要になります。

認知症の主な症状として、物が盗まれたなどの“妄想”やあてもなく歩き回る“徘徊”、些細なことでの“暴言・暴力”などがあります。また、手足の震えや動かしにくいといったパーキンソン症状などがみられることもあります。このように脳の病気や障害などのさまざまな原因により認知機能が低下することで日常生活に支障が出ます。最近、急にこのような症状が出てきた方は特に注意が必要です。

認知症は症状(種類)によって治療法が異なり、早めの治療によって進行を遅らせることができます。種類はアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症など様々あり、その判別にはCT検査やMRI検査、RI検査などの画像検査が有用です。今回は画像検査の中でも脳の機能を調べるRI検査を紹介します。

### 【脳血流シンチグラフィ】

脳の血流状態を調べる検査です。血流の低下している部分が脳のどの部分かを調べることで認知症の種類を特定することができます。



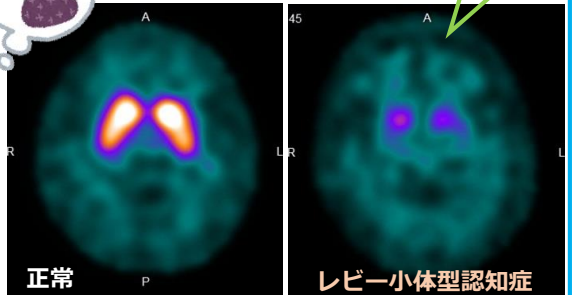
血流が低下している部位ほど色が付きます

### 【DAT (ドパミントランスポーター) シンチグラフィ】

運動機能に関わる脳内物質(ドパミン)を調べる検査です。脳血流シンチグラフィだけではわかりにくいレビー小体型認知症やパーキンソン病の診断に用いられます。



機能が低下している部位は形がはっきりしくなくなります



### ☆担当医師からの一言☆



脳神経内科 部長  
伊藤 悟 先生

認知症やパーキンソン病などの脳の病気がなぜ起こるかはまだ未解明ですが、「加齢」が主な要因のひとつであり高齢化社会を背景に増加傾向です。ただ、病気が早期の場合などではMRIやCTといった一般的な検査では異常が確認できない場合もあります。そのときに役に立つのがRI検査です。脳血流やドパミン神経、自律神経機能などを「目にみえる」かたちで検出できますので病気の早期発見につながります。

完全に治す治療法がない病気であっても、近年では「症状を緩和する治療薬」も増えてきていますので、早めの受診をおすすめします。

### ◆放射線部の紹介動画◆

放射線部の目指すもの  
～最高のチームワーク～

社会医療法人 明陽会  
成田記念病院 放射線部

<https://youtu.be/fd0MqUazc1g>



CT・MRI検査など緊急の場合は個別相談にて対応させていただきます。お気軽にお問い合わせください。

ご予約・お問い合わせは  
地域医療連携室まで

TEL 0532-31-2528

FAX 0532-31-2279

受付時間 8:30～17:30 (月～金)  
8:30～12:30 (土)

